

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2772501132		
法人名	社会福祉法人 池田さつき会		
事業所名	グループホームポプラ東山		
所在地	池田市東山町555-1		
自己評価作成日	平成 22年 2月 15日	評価結果市町村受理日	平成 22年 6月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772501132&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772501132&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 3月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安全、安心の環境。生活者、スタッフも元気で、いつも笑顔。喜怒哀楽を共に感じられる関係づくりができています。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人が運営するグループホームで、特養やデイサービス等を併設しています。ホーム周辺の庭には季節毎に花を咲かせる木が植えられ、ホームの名前でもあるポプラの木もあって緑が溢れています。法人の「生活の場」「交流の場」「福祉拠点の場」を提供するという基本理念のもと、管理者は「共生・共存の精神」と「ゆっくり 一緒に 楽しく」を理念として掲げ職員と方針を共有し、法人のバックアップのもと、地域・家族・医療と連携を取り、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう支えています。管理者を筆頭に行き届いたケアプランとサービス、医療面での十分な配慮のもと、職員が利用者に対し優しく丁寧な雰囲気と接しており、言葉が出なかった利用者から言葉が出るなどの改善がみられます。家族や友人、知人の面会も多く、一緒に外出したりなど、関係の継続ができています。利用者はゆったりと安心して過ごしています。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設運営理念に基づき、1人ひとりの存在が価値あるものと認識するように定期の会議、研修を通じて支援の内容を管理者、スタッフは確認しながら、日々の生活支援をしている。	法人の「生活の場」「交流の場」「福祉拠点の場」を提供するという基本理念のもと、管理者は「共生・共存の精神」と「ゆっくり 一緒に 楽しく」を理念としてスタッフ室に明示しています。リーダー会議・ユニット会議等の定例会議や毎日の業務を通じて職員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、地域の人たちと共に支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣での毎日の散歩、買い物を通じて地域の方との交流を図っている。地域の行事（祭り、ゲートボール、）学校、幼稚園の子供たちとの交流、地域ボランティアさんの協力で地域の一人としてのお付き合いができています。	地域の自治会に加入し、地域の祭りやグランドゴルフ、水路掃除に参加し、毎朝行う周辺散歩では農家の新鮮で安い野菜を買い、季節の果物や花をいただく等、近所付き合いをしています。昨年夏にはホームが主催した夏祭りに家族や地域住民、ボランティア、職員合わせて250人が集う大盛会でした。利用者は学校や幼稚園児と交流し、近隣の知的障がい者作業所の人たちとも交流しています。また地域のボランティアとぬりえをしたり、折り紙や詩吟、書道、英会話を楽しみ、散歩にも出かけたりしています。法人としても地域で認知症の勉強会を行い、地域住民の交流のためにホームを会場として提供しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	法人全体の取り組みとして地域貢献をしている。福祉委員、民生委員の活動に参加、法人の精神科医の認知症勉強会の主催、ふれあいサロンの協力、会場提供による地域住民との交流で地域住民との積極的連携は進んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回 会議を開催している。公的機関、家族、地域住民代表、スタッフが参加している。事業所の取り組みの報告、テーマを決め、各自から率直な意見を聞かせていただく。スタッフの仕事に対するモチベーションも上がり、家族から真摯な意見も聴かせていただける場所になっている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、自治会代表、地域住民代表、3家族の参加のもと、年6回のペースで開催しています。会議では事業所の活動状況や行事について説明し、利用者の生活状況や重度化していく認知症対応の難しさなどの課題について話し合い、池田市のグループホーム連絡会での交流内容について説明する等、充実した会議内容となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の地域ケア会議、池田市グループホーム連絡会、相談員の訪問などで協力、連携を図れている。ホームだけで解決できない問題に対しても市への相談、協力体制ができています。	市の担当職員とは、普段から困難事例の相談や交流を図り、協力関係を築いています。市が主催する地域ケア会議や市も参加している自主運営の3ヶ月毎のグループホーム連絡会にも積極的に参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の身体拘束、玄関の施錠などスタッフ間で話し合いをしています。生活者の希望、願いを尊重しながら、「待ってください。」と言う言葉で生活者の思いを止めている現実に悩んでいます。生活者の安全確保と職員数の充実にギャップがあり、心身の拘束について今後もスタッフ間で検討していくテーマです。拘束委員会で勉強会もありケアの向上につながる。	身体拘束のないケアに取り組み、前回外部評価で示された玄関扉の電子ロックの施錠については、施錠の影響を最小限にするため毎日散歩に出かけ、庭に通じるテラスの窓を開放するなど対策を講じていますが、施錠そのものの開錠には至っていません。次のステップとして、玄関通路と車路の間に簡単な門扉を取り付けることを検討しています。	利用者や家族への心理的拘束感を軽減するためにも、また管理者や職員も開錠したい思いが強いいため、今後もさらに話し合いを続け、日中の可能な時間帯だけでも見守りの強化等を行い、安全面に配慮しながら、少しでも鍵をかけないようにする工夫が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会、事故防止委員会に参加することで心身ともに援助が必要な人生の先輩を尊重、敬うことを日々の生活支援のなかで意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加することで、職員間の学習の場に活用している。パンフレット、ポスター等で啓発活動している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に管理者からご家族に丁寧に説明をさせていただく。不信、不安の解消を図りながら、家族からの納得、理解を得るように努力している。特に、介護保険制度の知識に疎い場合、書面での説明で同意書をいただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的訪問の市相談員との連携、運営推進委員として家族の参加により施設内に外部からの風が入っている。地域のボランティアさんの協力も日々の生活に活気をもらっている。	家族は、頻繁に面会に訪れています。また、面会以外でも利用者の誕生日の茶話会に参加したり、介護計画の見直し時にケアマネジャーと話し合ったりする等、家族がホームを訪れる機会は多く、意見や要望を熱心に表出しています。家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話報告をしています。それぞれの家族には毎月担当者が利用者の生活ぶりや行事での様子を書いた手紙を送付しています。また季刊でユニット毎に行事写真や新人職員の紹介記事を載せた便りを送付しています。ご意見承り箱も設置しています。市の介護相談員を受け入れ、利用者が外部者に要望を表せる機会を設けています。家族の意見は、管理者や職員が陥りがちな「面倒を見てあげている」という思い込みを反省する大事なチャンスと考え、家族とは積極的に話し合うなかで、信頼関係を築き、家族の認知症に対する理解が深まっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット会議を通じてスタッフ間の活発な意見交換はできている。今回の外部評価を各自が記入することで、自分たちの毎日のケアを確認できた。また、管理者もスタッフの意見、取り組み、実践を知ることができた。	定例のリーダー会議やフロア会議のほかに、事故防止やボランティアなど、さまざまな委員会を設置し、職員は必ずいずれかの委員会に所属しています。各種の委員会で業務の改善事項や課題について話し合い、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。また年度計画で職員は自己評価を行い、幹部と話し合う機会があります。ホームでは、資格取得の支援もしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ各自が向上心を持てる様に研修への参加を積極的にすすめている。シフト調整、資格習得のための勉強会も法人全体で実施されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	活発な委員会活動（全員が委員会活動に参加）、内外の研修を受けるようにシフトを調整している。当ホームが認知症実践者研修の現場であり、互いに学ぶ機会がある。現在、池田市のグループホーム内の交換研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成19年12月から池田市グループホーム連絡会を開催している。相互訪問、勉強会、事例検討、医療連携、と活動の幅は広がりつつある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の家庭訪問、面談で生活環境を見させていただく。新しい環境に適応できるまで、家族の協力を得ながら、不安な本人の気持ちを受け止めながら新しい関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のご家族の不安、疲労困憊の状況を見ることが多い。ご家族の心情を理解しながら信頼、安心をもって頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前の環境やサービスが継続できるように連携、協力を依頼する。本人が安心、楽しめる環境を提供することを時間をかけて説明している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援を一方的に受ける立場ではなく生活を共にしているもの同士互いに助け合っている関係、場面を意識して作り出しています。生活者ひとり1人に役割があり力を発揮していただく場所をスタッフは提供しています。役割をもつ生活者は生き生きされています。人生の先輩に対して教えていただくことが多いことにスタッフは常に感謝の気持ちを持っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会、誕生日会等の参加、病院への付き添い、外出支援など参加、協力的なご家族が多い。季節の着替え、居室の整理整頓、大掃除の協力など本人との関係性を大切にされるご家族に施設は支えられている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでおられたらご近所の友人の訪問、外食、カラオケを誘っていただく、教え子との同窓会など今まで培ってきた信頼関係が継続されている。	馴染みの支援として、利用者の友人が訪れ、一緒に外食やカラオケに出かけることもあります。元教師の利用者に教え子が訪れ、一緒に同窓会に参加したりするなど、利用者が大切に、大事に思う馴染みの人や場所を聞き取り、関係が途切れないよう支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事、余暇活動を通じて互いに助け合いながら活動をされている。時にはスタッフが介在する必要もあるが、4年を経て、仲間の意識が芽生えている。日中はほとんどの方がリビングで活動を楽しまれている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移動された方もクラブ活動に参加される機会をもたれる。また、入院された方の様子をお見舞いにいき、情報を得るようにしている。		

**Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント**

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で自然に利用者の思い、希望を聞きだせるような環境作りが心かけている。「帰りたい」「外に行きたい」1人一人の思い、希望に耳を傾けながらも、その方の真の気持ちを理解できないままその場、その場の対応になっている。不穏になりやすい方の真の希望、思いを受け止めての支援は不十分である。	最初にセンター方式を使用して丁寧にアセスメントし、その後ホームでの日々の暮らしの中で、利用者や家族が語る希望や思いを居室担当者が「追記シート」に記入し、職員間で情報の共有を図り、実現に向けて支援をしています。	
----	---	--	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族にセンター方式で情報の記入を依頼している。入所後日々の生活をみながら書き込みをしているが、毎日新しい発見があり、スタッフ間で周知するためにファイルで回覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チームケアで生活者の心身の支援をしていく為に、記録、申し送りの徹底をしています。記録の未完成の部分は申し送りで補い、生活者の変調を迅速に把握できるようにつとめている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は居室担当、家族、介護支援専門員の3者で検討し、作成している。ご家族の願い、生活者の安心、安全、願いを取り入れながら、スタッフの支援の範囲に則した計画を作成している。	介護計画は6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は支援経過記録を用いて、介護計画の項目毎に利用者一人ひとりのモニタリングを毎日行い、担当者がまとめています。月ごとにフロア会議でカンファレンスを行い、サービス担当者会議で介護計画の方向性と内容を決めています。毎月、このサイクルを繰り返し、6ヶ月毎に担当者がサービス計画をとりまとめています。ケアマネジャーが開くサービス担当者会議には家族も参加し、見直しにつなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録と介護計画に反映させている。個別ケース記録に介護プランが印字されている。1人一人の個別のプランがその方の生活を守る為の基本であるとの考え方であり、スタッフのケアの統一を図っている。担当者は常にプランに則した支援が実行できているか、不要なプランではないかモニタリングをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のイベントに参加する機会が多い。ご家族も共に楽しんでいただける。法人内に喫茶、美容室、カラオケルーム、ランドリーが設備され利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各生活者の多様な趣味に答えようと地域資源、ボランティアの協力を得て様々なクラブ活動をしている。書道、絵画、詩吟、折り紙、英会話、朗読、セラピードッグ…。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療情報と家族の希望に応じて主治医を決めていただく。法人内に精神科、内科のクリニックがあり、家族の了解のもと診療していただいている。訪問診療、訪問看護が定期的であり、適切に健康管理ができています。緊急の場合も対応していただいているので安心度が高い。口腔ケアは訪問歯科がある。	ホームは、家族と利用者の同意を得て、協力医療機関の医師や看護師による定期的な訪問診療と訪問看護を受けられるよう支援しています。また、利用者は必要の都度、協力医療機関の医師もしくは以前からかかりつけの医師の受診を受けています。ホームでは通院の介助も行っています。協力病院と連携し、急変時の対応についての体制も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が2週間に1回、健康管理と、医師との連携相談をしている。訪問時、スタッフは報告、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院がある。主治医の指示、紹介のもと適切、迅速に入院できるが、情報、連携をとりながら安心して治療をしていただきたいが、認知症を抱えている利用者に対して治療が困難と言う理由で家族、施設の協力要請が多く病院の看護、医療体制に安心できない。医療機関との安心できる協働関係を如何にして築いていくかグループホームの課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医療従事者、施設の方針、スタッフの思いをカンファレンスを通してチームの統一した方針の共有を図っている。家族交流会、運営推進会議の中でテーマとして議論されている。出来ること、出来ないことを明確にしながら重度化に対する方針を決めている。	ホームでの看取り実施の方針はありませんが、利用者が重度化した場合でも可能な限りホームでの生活が継続できるよう、また併設特養でも支援ができるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、方針を共有しています。かかりつけ医と連携を図り、状況の変化に合わせてその都度、利用者や医師、看護師、家族と話し合いを行い、対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	健康管理委員会、感染予防、事故防止委員会の参加することで、応急手当、緊急の対応の訓練を受けている。全スタッフが周知し、実行できる能力が身に付いているわけではないが、初期対応の実践を身につけられるように学ぶ機会を作りたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練のマニュアルはあるが、実践訓練がなかなか出来ない。2月18日に防火訓練をする。災害時の備品の管理、チェックも不十分であり、今後、再度整備の必要がある。	災害に備えるマニュアルを作成し、自動的に1年に1回避難訓練を実施していますが、消防署指導の避難訓練は実施できていません。災害時の食料と水の備蓄についても最小限の量を準備していますが、十分とはいえない状況です。	災害に備え年に2回の避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署の指導のもと、避難訓練を実施することが望まれます。避難訓練は夜間を想定したり、地域の人々にも協力を得て実施したりする等、訓練の内容をより実践に即したものに工夫してはいかがでしょうか。備蓄については、非常用食料や飲料水をせめて2日以上、備蓄することが期待されます。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不快な思いを抱かせないように言葉遣い、行動に注意をしている。スタッフの不注意な言動で生活者の不穏、混乱を引き出してしまう為、常に、スタッフの言動に指導の必要を感じている。また、記録の書き方なども人格を尊重しているかチェックしている、家族に記録の開示もしている。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう職員の言葉かけや態度は明るく丁寧であり、やさしい雰囲気です。職員採用時に、個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で意思疎通が難しい方に対しては時間をかけて意向確認をする努力している。指示、無理強いを極力避けるようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側の都合を優先するのではなく生活者の思い、意向、ペースに合わせて「一緒に」、《ゆっくり》、「楽しく」を指針にしている。現在のホームの空間が穏やかな雰囲気に包まれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、パジャマから着替える時に着たい服を選択していただく。洗顔後化粧をされている。入浴後ご自分の化粧品を使用されて、身だしなみに関心を持たれる方が多い。化粧ボランティアも楽しみにされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつ、食事、配膳、買い物など一緒にしていただいている。食事時には食べ物の話題で盛り上がるのが楽しみの一つ。	併設特養の厨房より調理済みの食材を取り寄せていますが、朝食や昼食のご飯やみそ汁、小皿料理等はホームで調理することにしています。利用者は野菜の下ごしらえや食事準備、後片付けなどの得意な分野で参加しており、調理場に立つ利用者の晴れやかで生き生きとしています。職員は利用者と同じものを一緒に食べながら食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートを行い、楽しい会話となごやかな雰囲気作りをしています。月に1度は外食やお好みメニューでの昼食を楽しみ、手作りおやつの日もあります。併設特養の屋上にある菜園で、収穫した野菜が食卓にのることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の下でバランスの食事が提供されている。摂取量、水分量、記録し、体調の変化に気をつけている。毎月の体重測定、排泄の状況確認もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを実施している。習慣として定着するように、こえ掛け、誘導をしている。拒否される方の対応が今後の課題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各生活者の表情、様子を見ながら、トイレに誘導している。意思疎通の困難な方は時間誘導している。昼間はトイレ排泄を実行しているが、夜間リハビリパンツとパットを使用されている方が数人おられる。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を職員間で把握しています。前誘導によるトイレでの排泄の支援を行った結果、自立へと至った事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな生活者に対して自然排便を促すように努力している。散歩、水分、体操、お茶などを利用している。頑固な便秘症の方は医師と相談しながら服薬管理している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせて、時間、回数を決めている。毎日入浴、夜間入浴も実現している。	利用者は平均して週3回の入浴をし、毎日の入浴や夜間の入浴を楽しんでいる方もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人一人の生活リズムに合わせて、疲れの様子が見受けれたらお部屋で休息していただくように誘導している。夜間、就寝時間、起床時間は各生活者のリズムに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師との情報提供、相談により服薬している。副作用、誤薬に注意をしている。ミスがある場合、医師への報告、相談を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	多種のクラブ活動、イベントの参加、毎日の散歩、外出行事など集団活動は実践できているが、1人ひとりの楽しみ、役割などきめ細かい対応は充分ではない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参り、懐かしい場所への訪問、特別な楽しみは家族、知人をお願いしていることが多い。カラオケ、デパートでの買い物など家族、友人の協力がおおきい。	自然環境に恵まれ、緑の多いホーム周辺へ毎日散歩に出かけています。散歩時には、近隣の人と会話をしたり、お地藏様にお参りしたり、犬や猫との出会いに喜んだり、農園や植木屋の花を楽しんだりしています。買い物に行ったり、初詣や季節の花見、外食へ出かけたりしています。また併設特養の屋上にある菜園で野菜の水遣りや収穫も楽しんでいます。訪ねてきた友人や教え子との外出もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時、支払い時お金のやり取りを生活者にさせていただいている。ご友人と遊びにいかれときお金を持参されています。ご友人に管理していただきながら、ご自分の財布からお金を使う体験をさせていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話でご家族と連絡を取り合っています。家族のことが気になり、電話の要望があれば連絡をとるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるディスプレイ、清潔、安全、安心できる空間作りをしています。換気、室温、湿度を特に管理しています。	ホームの周辺の庭には季節毎に花を咲かせる木が植えられ、ホームの名前でもあるポプラの木もあり、緑が溢れています。共用空間には、開放的な大きな窓があり、そこから見える周辺の自然景観とともに、花を生け、ぬりえ、書など利用者の作品がやわらかい雰囲気をつくっています。布地に季節の飾りをし、まわりに利用者が虎の顔となって貼ってあるディスプレイは季節感を感じさせます。リビング兼食堂は広く明るくゆったりとしており、2ヶ所のソファには大きなぬいぐるみを置き、利用者が長時間過ごせる、居心地のよい落ち着ける場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置により、生活者同士、また、スタッフと一緒にゆったりと、寛げる場所になっています。1階、2階の生活者、スタッフの行き来もあり心地よい空間がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には鍵があり、生活者は休まれる時、入浴時には鍵をかけられる方がいます。居室は日あたりも良く、清潔で、快適な広さがあり、馴染みの家具、私物が置かれています。また、手づくりの作品に囲まれています。	広くきれいな居室には利用者が持ち込んだ整理ダンス、ソファ、椅子、カーペット、こたつ、仏壇と過去帳、家族の写真、アートフラワー、時計、テレビ、手作りのパッチワークのクッションやソファ掛け等があり、個性的で居心地の良い、過ごしやすい雰囲気になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂場、居室には生活者が判断でき、安心できる場所であると判断できるように、様々な工夫をしている。居室まえには自分の写真、お気に入りの動物、暖簾など。		